



広報おげと
KETO

2019 **9**



つなぐこころをたすきに込めて

9/7 図書館まつり



大人もびっくりのマジックショー



毎回、大盛況の古本市



大切な本にブックカバーを



ほのかに甘い、甘納豆入りでんぷん団子

8/24 ちびっこクッキング



みんなで作ると楽しいね

8/24 ふるさと少年クラブ、樹木を学ぶ



置戸神社境内の樹木を知ろう

ひとまち おけと

9/10 置小5年生森林散策



絶景! 風穴、ガレ場からの眺望



3班に分かれて、植物などを楽しく学ぶ



置中1年生ふるさと教育、遺跡発掘現場を見学

8月19日、置中1年生は、中里地区の町民の森で行われている札幌学院大学発掘現場を訪ね、出土した約3万年前の黒曜石でできた石器などの遺物や町の歴史を学びました。札幌学院大学の太塚宜明講師は「遺物を調べることで人類の生活体系を知ることができます」と話し、授業の最後に「貴重な文化財が紛失してしまうのは、まちにとって大きな損失」と、これからの遺跡保存の重要性を語りました。



まちの未来を考える、こどもワークショップ

第6次総合計画策定の参考にするため、小学生3～6年生を対象にしたまちの未来を考える「こどもワークショップ」が、8月24日、中央公民館で開催されました。子どもたちは3班に分かれ、「川を汚さない、山に木を植えて自然を守りたい」、「給食やクラフトの体験ができる」、「思いやりのある全員が元気なまち」などの意見を出し合い、将来のまちの姿を模索しました。



いきいきライフフェスティバル開催

いきいきライフフェスティバルが、8月31日、中央公民館で開催され、NPO法人置戸町くらしサポートたちつとなどの展示や販売、講演会を行い、約150人が参加しました。講演の部では、北見赤十字病院の斎藤高彦副院長が「最後まで自分らしく生きるために患者本人と家族と医療従事者がこれからのことについて話し合うことが必要」と説明し、参加者は深く耳を傾けていました。



こどもセンターどんぐり菜園、収穫を迎える

こどもセンターどんぐりの菜園では、JAきたみらい南支部青年部の協力により20種類の野菜が栽培され、実りを迎えています。9月5日、年中組の園児が2種類のジャガイモを収穫。翌日に料理体験を行い、試食しました。自ら収穫し食することで、苦手な野菜でも「おいしい」と食べられる園児もいるそう。これからは枝豆やヤーコン、白花豆など10月末まで野菜の収穫は続きます。



特集

地域の防^{ぼう}

甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震から1年が過ぎました。道内全域に起きたブラックアウト（大規模停電）は、私たちの生活に大きな影響を与えました。

防災力を高めるためには、自助・共助・公助の3つの力が必要です。今回の特集は、お互いを助け支えあい、地域を守る力、「共助」の取り組みから、私たちのまちの防災を考えてみましょう。

■自助・共助・公助の取り組み

防災の備えで大切なことは、自助・共助・公助の3つの力です。自助とは、一人ひとりが自分の命を守ることです。非常持出品・備蓄品の準備や避難所の確認、自主的な避難などがあります。共助とは、地域や身近にいる人同士が助け合うことです。自主防災組織などが災害状況の情報収集や住民の安否確認などを行い、避難を手助けします。公助とは、町や国、自衛隊などによる救援・救出、復旧活動を行うことです。

災害による被害を最小限に留めるために、それぞれの取り組みを進めることが重要です。

■共助、地域の自主防災組織が設立

地震や大雨などのまさかの事態が発生したとき、高齢者など自ら避難することが難しい場合、自分の力だけでは命を守ることができません。

また、広範囲にわたり状況が変化していくなかで、行政の手が迅速に行き届かない場合もある

かもしれません。そんなときに活躍するのは、地域に住む皆さんの力です。自治会、隣近所の支えあいが、命を救うことになるのです。

町内で初の自主防災組織が誕生したのは、平成26年4月に設立した勝山自主防災隊です。その後、平成29年に秋田地区自主防災組織が設立。続いて同年6月に境野地区自治連合会内にも組織されました。

置戸地区では、平成31年3月に川向地区自主防災会、緑栄自治会が設立されています。また、このほかに複数の自治会で防災学習会を開催するなど設立に向けて、検討や話し合いをしています。

日頃から災害に備えて地域住民が力を合わせ、お互いを助け合おうという取り組みは、町内で少しずつ広がりを見せています。

■自主防災組織の取り組み

自主防災組織が、避難行動のために世帯の状況を確認することや地域で避難訓練を行うことで、暮らしの中に災害の備えを意識付け、万が一のときにも、慌てずに落ちついて行動することができます。

川向地区自主防災会やこれから設立を目指す拓殖自治会では、地域内の全戸を対象に、いざ災害が起きたときに自力で避難ができるかどうか調査しました。この調査を通じて、地域のなかで助け合いの意識が高まっています。次のページからは、自主防災組織の取り組みを一部紹介します。

さい りよく 災 力 ア ッ プ! きょう じょ 共 助 を 考 え る

報告1

境野地区防災訓練を実施

境野地区自治連合会と町による共催で、6月29日、境野地区住民54人を含む町内外計106人が参加し、防災訓練を実施しました。

第一部では境野公民館内の停電時の太陽光蓄電池の稼働方法のほか、防災備蓄品の確認などを町担当者が説明しました。昼食では自衛隊と婦人部が調理したカレーライスの試食を行いました。

第2部では防災体験会を実施。網走地方気象台による防災落語のほか、消防によるAED講習、段ボールベッド組み立て、土のう作成などの体験のほか、鹿ノ子ダム管理支所によるダムに関するパネル展示や自衛隊車両の展示を行いました。



土のうを作成する参加者

鹿ノ子ダムの役割を紹介するパネル展示の様子



報告2

川向地区、安心な避難行動をとるために

協生、新光、若松の3自治会では、昨年12月に自主防災組織設立準備会を立ち上げ協議を重ね、今年の3月に川向地区自主防災会を設立しました。

同会では、災害発生のおそれがある場合など住民の避難行動が必要になったとき、避難できない人に対して、避難するための手助けを目的としています。

そのために地域内の住民を対象にした避難行動に関する調査を行い、「自力で避難ができない」または「避難に不安がある」と回答した手助けを求める人と「自力で避難できる、かつ手助けもできる」と回答した人を確認しました。あらかじめ明らかにしておくことで、地域内で逃げ遅れる人が出ないように取り組んでいます。このような調査は、これから自主防災組織設立にむけて取り組んでいる自治会でも参考にされています。

近年の水害や地震などの災害による被害の中には、自力で避難行動ができずに、自宅で被災したケースもみられます。自らの身を守ることは大原則ですが、地域の人同士が声を掛け合い、共に避難できる意識付けや体制づくりが重要です。



置戸中学校で7月23日、同校の全校生徒と置戸高校1～2年生の約70人が参加し、西胆振行政事務組合伊達消防署、網走地方気象台、置戸赤十字奉仕団、日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授などの協力の下、災害時の対応を学び、地域の防災意識を高める防災教育の授業を行いました。

1校時目、同校生徒は直下型地震を想定した避難訓練を行い、一日防災学校がスタート。校舎玄関前に集合した生徒たちは、2グループに分かれて、非常用持ち出し品の確認や伊達消防署の地震体験車による地震体験、網走気象台による模型で津波のメカニズムなどを学びました。



地震体験車

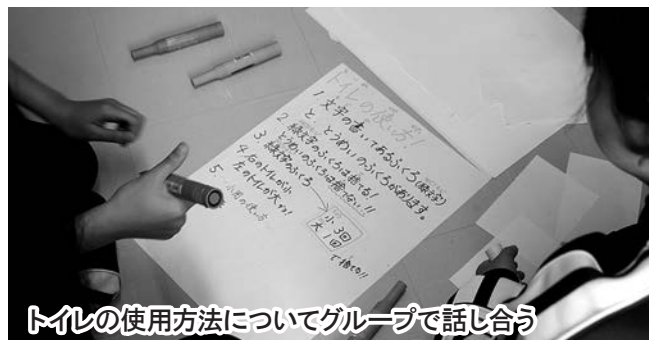
2、3校時目は同校生徒のほか置戸高校1～2年生21人も参加。日本赤十字看護大学の根本教授が講師となり、体育館で避難所運営を体験しました。最初に、床に敷いたブルーシートへ横になり、寝心地や物音が響く状況を体感しました。



避難者の状況を体感

次に町が今年度から備蓄を始めた段ボールベッドの組み立て作業を行い、使用感を確認しました。さらにプライバシーに配慮した上で、避難者に孤立感を与えない配置を考えるなど避難所運営で検討すべき課題を挙げ、解決方法の指導を受けました。このほか、携帯トイレの組み立てや要配慮者体験などを通して、避難所運営を仮想体験しまし

た。根本教授は「避難所で気を付けることは災害関連死。せっかく助かった命や健康を守ることが大切。利用しやすいトイレの位置など避難所の環境整備は重要なことです」と話しました。



トイレの使用方法についてグループで話し合う

4校時目では、耐熱性がある高密度ポリエチレンでつくられた災害用炊飯袋（ハイゼックス袋）を使い、無洗米や野菜のポトフ、蒸しパンなどを置戸赤十字奉仕団とともに調理し、試食しました。



ハイゼックス炊飯袋で調理する生徒

根本教授は避難所運営体験の中で、防災意識を高めるために「例えば、1枚の毛布を子どもとおじいさんのどちらに与えますか？避難者の年齢やそのときの状況によって、対応は変わってきます。異なる状況を考え、どう対応すべきか想像力を高めることが大切です。そして、今日学んだことを家族の人にも伝えてほしい。みんなの行動が地域の防災にもつながります」と生徒たちに語りかけました。

災害で命を守るためには、自らが具体的な対策を考える想像力と行動する力が重要です。その力が地域の防災力の向上にもつながっていくことを一日の体験の中で生徒たちは学びました。



講師の根本昌宏教授

■「自助」も大切、日頃から備えておきましょう

災害への備えは日頃から。自分や家族の身を守るための防災情報の収集、いざというときに必要な物の備えはできていますか？必要な物をリュックサックなどに入れて、いつでも持ち出せるように準備しておきましょう。荷物を入れたら、実際に背負って重さ確かめましょう。

災害直後から数日間、自足するためのレトルト食品や飲料水、煮炊き用のカセットコンロ、ポータブルストーブなどの備蓄品も用意しておきましょう。食料の備えは普段から備蓄に向くレトルト食品やインスタント食品、缶詰、乾物などを買い置きし、日常で食べた分だけを買って足していく（ローリングストック）方法がおすすめです。

■最低限の非常持出品■

□現金・貴重品（保険証、免許証） □携帯電話・充電器 □常備薬・お薬手帳 □メガネ・コンタクトレンズと保存ケース・保存液 □生理用品・乳幼児用品 □防寒衣
※ご家庭の状況や季節に応じて必要なものを用意しましょう。



情報メールおけと・ツイッターを活用しましょう



利用登録することで、お持ちの携帯電話やスマートフォンに緊急情報や防災情報をお届けします。メールの受信によって、いち早く情報を入手し安全な行動をとりましょう。

■情報メールおけと登録方法■

①touroku@i.town.oketo.hokkaido.jpに空メールを送信します。

②送信後、数分以内に登録用URLが記載されたメールが届きます。

メール内容の確認をした後、配信カテゴリを選択し、【メール配信登録】をクリックしてください。

③登録が完了した後、数分以内に登録完了のお知らせメールが届き、手続きは終了です。

詳しくは町ホームページを参照または総務課防災係（☎52-3311）まで。



情報メール登録用
QRコード

■ツイッターについて■

置戸町防災公式アカウントです。情報発信を目的としていることから、当アカウントへの投稿に対して個別の対応は行いませんのでご了承ください。

アカウント名 置戸防災 (@oketobousai)



■日頃の備えに防災ガイドマップを活用しましょう！

防災ガイドマップを活用し、ご家族皆さんで話し合うなど、防災対策に活用しましょう。防災についてわからないことがありましたら、総務課防災係（☎52-3311）までお問い合わせください。

町職員の人数や給与などを紹

採用・退職と職員数

表1 職員の採用状況（令和元年度）

区 分	職 種	人 数
新規採用	事務職	3人
計		3人

※平成30年4月2日～平成31年4月1日までの新規採用職員

表2 職員の退職等の状況（平成30年度）

区 分	人 数	前年度人数
定年・早期	2人	2人
自己都合	0人	2人
計	2人	4人

採用／令和元年度に向けた職員の採用については、**表1**のとおり3人採用しました。

退職／平成30年度の退職者は2人で、内訳は**表2**のようになっています。

職員数／部門別職員数の状況、前年からの増減状況は**表3**のとおりです。なお、北見地区消防組合への出向職員（1人）が一般職に配置替えになっています。

表3 部門別職員数の状況と主な増減理由

各年4月1日現在

部 門	区 分	職 員 数		対前年 増減数	主な増減理由
		H31年	H30年		
一般行政部門	議 会	2人	2人	—	
	総務企画	21人	19人	2人	退職者等の配置替のため
	税 務	4人	3人	1人	
	民 生	13人	12人	1人	正規職員配置のため
	衛 生	7人	7人	—	
	農林水産	7人	8人	△1人	一部事務減のため
	商 工	2人	2人	—	
	土 木	4人	4人	—	
	小 計	60人	57人	3人	
特別行政部門	教 育	12人	13人	△1人	欠員分を臨時職員で配置のため
	警 察	—	—	—	
	小 計	12人	13人	△1人	
普通会計		72人	70人	2人	
企業等会計部門	水 道	1人	1人	—	
	下水道	1人	1人	—	
	その他	1人	1人	—	
	小 計	3人	3人	—	
合 計		75人	73人	2人	

※専従派遣職員含む

人事評価の状況

平成28年4月から全ての職員に対して、人事評価制度を導入し取り組んでいます。評価基準の明示や評価結果の本人への開示などの仕組みは、置戸町職員の人事評価実施規程に定められています。「能力評価」「業績評価」の両面から評価をし、人事管理の基礎としています。

職員の給与①

給料は、民間でいう基本給に相当するもので、職務と責任の度合いに応じて定められています。

人件費とは、職員に支給する給料のほか、退職手当や共済費の事業主負担分及び町議会議員や各種委員、臨時職員の給料、報酬などを含む広い範囲の費用をいい平成30年度の人件費は**表4**のとおりです。

また、人件費のうち毎月支給される給料、諸手当に加えて民間企業の賞与にあたる期末勤勉手当をあわせた職員給与費は**表5**のとおりです。なお、職員手当は退職手当を除いた額です。

表4 人件費の状況（平成30年度一般会計決算）

住民基本台帳人口 (H31.3.31現在)	2,872人
歳 出 額	45億1,484万7千円
実 質 収 支	1億5,083万3千円
人 件 費	6億1,133万2千円
人 件 費 率	13.5%
平成29年度の人件費率	14.7%

表5 給与費の状況（令和元年度一般会計予算）

職 員 数	72人
給 料	2億4,888万0千円
職 員 手 当	4,818万2千円
期 末 勤 勉 手 当	1億0,218万0千円
計	3億9,924万2千円
1 人 当 た り	562万3千円

※1人当たりの額は、専従退職者を除いた人数で算出

町職員の給与は、その職務の内容に応じた給料と、扶養手当や通勤手当などの諸手当で構成されており、給料や諸手当の内容は、国やほかの地方公共団体の職員の給与などを考慮し、町議会の議決を経た「置戸町職員の給与に関する条例」で定められています。

職員の給与②

職員の給料月額給料表によって決められています。平均給料月額、平均給与月額、平均年齢は表6、初任給、経験年数別、学歴別給料月額は表7のとおりです。

表6 平均給料月額、平均給与月額、平均年齢の状況（一般行政職）

平成31年4月1日現在

平均給料月額	286,873円	平均給与月額	310,624円	平均年齢	37.0歳
--------	----------	--------	----------	------	-------

表7 初任給、経験年数別、学歴別給料月額状況（一般行政職）

平成31年4月1日現在

区 分		初 任 給		経験年数区分別平均給料月額			
		置戸町	国	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年
一般行政職	大学卒	180,700円	180,700円	290,195円	342,798円	365,367円	388,558円
	短大卒	161,300円	161,300円	262,300円	285,500円	348,970円	389,940円
	高校卒	148,600円	148,600円	232,200円	295,365円	334,068円	353,468円

平成30年度より、4級職以上の職員の基本給を3%削減しています。

各種手当

民間企業の賞与に相当する期末・勤勉手当は、6月と12月に支給しています。今年度の状況は表8のとおりです。

退職手当は、退職の理由と勤続年数に応じて置戸町が加入している北海道市町村職員退職手当組合が定めた率により支給しています。今年度の支給率は表9のとおりです。

平成17年度より、課長職の管理職手当を削減しています。

表8 期末・勤勉手当の状況

平成31年4月1日現在

区 分		期末手当	勤勉手当	計
置戸町	6月期	1.3カ月	0.925カ月	2.225カ月
	12月期	1.3カ月	0.925カ月	2.225カ月
	計	2.6カ月	1.85カ月	4.45カ月
国	6月期	1.3カ月	0.925カ月	2.225カ月
	12月期	1.3カ月	0.925カ月	2.225カ月
	計	2.6カ月	1.85カ月	4.45カ月

表9 退職手当の状況

平成31年4月1日現在

区 分	置 戸 町		国	
	自己都合	応募認定・定年	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695ヵ月	24.586875ヵ月	19.6695ヵ月	24.586875ヵ月
勤続25年	28.0395ヵ月	33.27075ヵ月	28.0395ヵ月	33.27075ヵ月
勤続35年	39.7575ヵ月	47.709ヵ月	39.7575ヵ月	47.709ヵ月
最高限度	47.709ヵ月	47.709ヵ月	47.709ヵ月	47.709ヵ月
その他の 加算措置	①退職時前5年間の職 責在級期間に応じ加算 措置あり		同左	
	②45～59歳までの定 年前早期退職者には、 特別措置として2～ 45%を加算		同左	

■この内容は次月号に続きます ■お問い合わせ 総務課総務係 (☎52-3311)

10月1日使用分より上下水道料金が改定されます

今回の改定は消費税改正に伴うもので利用区分などの変更はありません。利用者の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。改定に伴う料金表は以下のとおりとなります。

■簡易水道

区 分	基本料金	従量区分	従量料金 (円/㎡)
	旧 → 新		旧 → 新
一般用	1,650円 → 1,680円	1～10㎡	25円 → 改定なし
		11～20㎡	210円 → 213円
		21㎡～	230円 → 234円
営農用	2,830円 → 2,882円	1～50㎡	60円 → 61円
		51㎡～	100円 → 101円
臨時用	3,500円 → 3,564円	1㎡～	230円 → 234円
私設消火栓	2,472円 → 2,517円		

■下水道

区 分	基本水量	基本料金	超過料金 (円/㎡)
		旧 → 新	旧 → 新
一般用 (水道水)	10㎡	2,060円 → 2,098円	222円 → 226円
一般用 (水道水以外) ※メーターのない場合	1家庭2人まで 2,060円 → 2,098円		1人増えるごと 1,030円 → 1,049円

■お問い合わせ 施設整備課水道管理係 (☎52-3314)

10月7日～13日は行政相談週間です

総務省では毎年10月に「行政相談週間」を設け、多くの皆さんに行政相談を利用していただけるよう、様々な行事を行っています。町では、総務大臣の委嘱を受けた行政相談委員が「1日行政相談所」を開設します。相談は無料で秘密は固く守られます。「公共施設が利用しづらい」、「標識がわかりにくい」など、お気軽に行政相談委員にご相談ください。

○日 時 10月7日(月) 午後1時30分～3時30分

○場 所 置戸町役場1階 相談室

○行政相談委員 植 野 トミ子

■お問い合わせ 総務課総務係 (☎52-3311)

このまちで暮す人、団体を紹介します。

#おけと生活

集いの場 まんてん

自主活動グループ「集いの場 まんてん（代表：照井綾子さん）」は、5月からスタートし、メンバー9人で活動しています。活動の前身は2年前まで行っていた町主催の介護予防教室まんてん。事業終了後も地域の皆さんが手仕事やおしゃべりを楽しめる集まりの場を作りたいとボランティアで教室に参加していた照井さんと講師の山岡晴美さんが中心となり、自主活動グループを立ち上げました。



手提げバッグを作成中、手前が代表の照井綾子さん

8月31日に開催された「いきいきライフフェスティバル」では、着物生地などで手作りした手提げバッグが配布されましたが、これは主催者から依頼を受け、メンバーで縫ったものです。以前に地域の方から寄付された生地を活用しました。グループでは、今後も福祉関係などで、皆さんに喜ばれるものを作りたいと話しています。

■大切なのは人と会うこと。

「家の中に居ると、テレビを見てばかりの生活。外に出て、人と会うことが大切だと思います」と語る代表の照井さん。活動は毎週火曜日（不定休あり）、地域福祉センター作業室など。「手仕事やおしゃべりが苦手でも大丈夫。まずは一度、集まりに来てみてほしい」と参加を呼びかけています。



集いの場まんてんの皆さん

10月1日から置戸町プレミアム付商品券の販売・利用開始！

10月1日より置戸町プレミアム付商品券の販売及び利用が始まります。

商品券は『購入引換券』を持参のうえ、**商工会**で**ご購入**いただき、商品券取扱店（取扱店の標示あり）でご利用いただけます。また、住民税非課税者の申請は12月24日まで受け付けています。

■置戸町プレミアム付商品券販売について

受付窓口：置戸町商工会（コミュニティーホールぽっぽ1階）

受付時間：9：00～17：00
（12：00～13：00除く）

販売期間：令和元年10月1日（火）
～令和2年2月28日（金）
（土、日、祝祭日を除く）

10月の販売日は、1～4日、21日、23～25日です。

※11月以降の日程は、広報・町ホームページにて周知します。

■お問い合わせ まちづくり推進室地域振興係（☎52-3312）

■令和元年度住民税非課税者の置戸町プレミアム付商品券申請について

受付窓口：置戸町役場2階 まちづくり推進室
申請期限：～12月24日（火）まで

※先に申請をいただいた令和元年度住民税非課税者及び3歳未満の子が属する子育て世帯主の方には、購入引換券を順次発送しています。



あゝ頃

— 写真で語る
おけと —

郷土資料から置戸の歴史や人々の
生活を語る写真を紹介していきます。



愛の川の水が、畑や道路に流れ込み、線路の土砂を流しました。現在では、住宅地となっています。

昭和50年8月23日から24日にかけて置戸町に台風6号が襲来し、集中豪雨となりました。置戸市街で199mm、鹿ノ子ダム観測所では360mmの降雨を記録し、常呂川は警戒水位を1.20mも増して2.14に。常呂川や緑川が氾濫し、林友・若木・宮下などでは床上床下浸水し、家財を流しました。そのほか勝山市街地の洪水、老人ホームが停電、温泉橋も流失しました。災害対策本部の集計によると、家屋全壊1戸、床上浸水66戸、床下浸水195戸、道路損壊25カ所、橋梁流失9カ所、畑冠水499ヶ所。推計被害額は農作物も含め約26億円に達し、大正11年以来53年ぶりとなる大被害となりました。

さらに10日後の9月6日から9日にかけて集中豪雨が襲い、愛の川が氾濫。秋田や境野親交では、道路や畑、線路などが被害を受けたほか、道路の排水作業中に町民1人が亡くなるという悲劇も重まりました。

今回の写真は、9月8日、境野親交で撮影された線路の土砂流出現場です。その後、置戸市街地では常呂川沿いの堤防や鹿ノ子ダムが建設され、現在のまの姿となりました。

(参考…続置戸町史、語りつぐ歴史と証言)

喜びと悲しみ(敬称略)

■ご出生おめでとうございます

○中井	高志 智栄	男児	鈴太郎 (りやうたろう)	拓実	7/26
○蝦名	慧一 礼良	男児	李音 (りお)	中央	8/19
○齊藤	直 美愛	女児	望愛 (のの)	拓殖	8/19
○錦川	翔太 かおり	女児	ここね	本町	8/20

■お悔やみ申し上げます

○関根	サキ	99歳	境野中央	8/1
○林	重子	87歳	若木	8/10
○鎌田	功	88歳	境野中央	8/15
○長谷川	敏	85歳	常盤	8/17
○倉内	テル子	88歳	緑清園	8/24

編集後記

☆去りゆく夏を惜しみつつ、気が付くと秋。植物や空の色、虫の音、においなど五感でおけとの季節を感じます。そんな何気ない日常が続くことに幸せを感じる今日この頃。被災者への祈りを捧げる夜長月です。 (祐)

人の動き

●世帯数	1,429世帯 (−3世帯)
●人 □	2,854人 (−3人)
●男1,329人(±0人) 女1,525人(−3人)	

令和元年8月31日現在()内は7月末比

■今月号の表紙：9月1日、晴天の下、町民サイクル駅伝大会が開催されました。1本のたすきをつなげるランナーたち、懸命な走りに沿道から声援がおくられました。